

共同運営部門：手術センター

—関係部署—

手術センター
麻酔科
外科系各科
腎臓内科
血液内科
臨床工学科

—概要—

手術センターは4階に手術室6室を有し、手術センター運営委員会が管理、運営している。主な関係部署としては、手術センター、麻酔科、手術を行う外科系各科、腎臓内科（シャント関連の手術）、血液内科（骨髄採取）、臨床工学科があげられ、場合によっては臨床検査技師、薬剤師、助産師、事務、通訳等の職種や、小児科、循環器内科などの医師とも協働している。2022年度は、手術センター運営委員会委員長の小林麻酔科主任部長が手術センター長を務めた。手術室看護師は、南 昌子看護師長、桑原深雪副看護師長、大野博美副看護師長を含め27名からなり、予定、緊急手術の全てに対応している。

手術室は6室のうち5室を予定手術用とし、原則として1室は緊急手術用に空けている。当センターには、泉州広域母子医療センター、心臓・血管センター、脊椎センター、人工関節センターなどが存在し、緊急度の極めて高い緊急手術が頻繁に発生するため、このような措置をとっている。

2022年度の予定手術枠は、以下の通りであった。

月	火	水	木	金
1	外科	外科	整形外科	心臓血管外科
2	外科	口腔外科	形成外科	脳神経外科 (血液内科) 産科
3	整形外科	脳神経外科	泌尿器科	外科 (第1週) 泌尿器科 (第2・4・5週) 泌尿器科 (第2～5週)
4	心臓血管外科	耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科	外科 泌尿器科 (第2週)	産科 心臓血管外科 外科 泌尿器科
5	呼吸器外科	準緊急 形成外科	耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科 口腔外科	耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科 救急科 腎臓内科
6	緊急	緊急	緊急	緊急

—実績—

2022年度の月別総手術件数および麻酔科管理件数を図1に示す。COVID-19の流行により、不要不急の手術を控えた期間があったためと、麻酔科常勤医数が減ったため、手術件数は減少した。年間総手術件数は3,125件、麻酔科管理症例数は2,625件であった（アンギオ室内の手術は含まず）。

2022年度の月別手術室利用率は、COVID-19の流行による手術患者用病床数の減少と、麻酔科常勤医数減少に

よる手術枠削減のため、算出されていない。

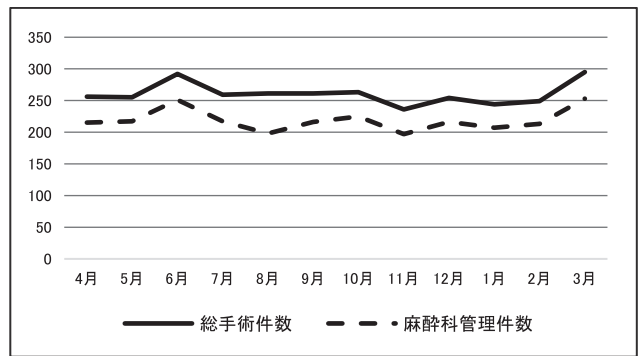


図1 2022年度手術実績

—今年度の成果と反省点—

2020年1月頃から世界的に流行したCOVID-19は、当院麻酔科、手術室にも大きな影響を与えた。さらに2021年度にはそれに加え、麻酔科常勤医数が減少し、非常勤医で補填したことも、手術数減少の原因となった。しかし2022年度には、COVID-19の影響も限定的となり、また麻酔科常勤医数も増加し、手術数は回復のきざしを見せている。2022年度もこれまで同様、申し込まれた手術はほとんど受け入れ、大きなアクシデントもなく終えることができた。

2022年度の改善点としては、以下のような点が挙げられる。まず、手術患者様やご家族様に、あらかじめ麻酔やリハビリの説明動画を見ていただくことで、一層丁寧な術前説明を行うことが可能になった。また小児のかぜ既往を、あらかじめ患者サポートセンターから電話で確認していただくことで、入院後にキャンセルとなるリスクを減らすことができた。手術部部位のマーキングは、以前からの課題であったが、手首にバンドを巻き、そこに明記する方法が提案され、定着した。また、当手術センターでは今まで術後の確認レントゲンは現像しシャーカステンを使って見ていたが、各部屋に高精細モニターを配備し、デジタルのままレントゲン確認を可能にした。これにより、現像、フィルムがなくなり、仕上がるまでの時間も短縮された。

—来年度への抱負—

2023年度には、いよいよポスト・コロナの時代になると予想される。COVID-19流行以前を上回るペースで、手術数を伸ばしていきたい。一方で手術センタースタッフが疲弊しないよう、ワークライフバランスに注意しながら、運営していきたい。